

# 羣書類從

九十五

內閣文庫		
三六函	六六六冊	一八六九〇號
三架		
		和書類

內閣文庫		
三五函	六六六冊	一八六九〇號
九架		
		和書類

內閣文庫	
番號	和 18690
冊數	666(129)
函號	215      3



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





永知元年十月廿八日

公署御書

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日

永知元年十月廿八日





群書類從卷第九十五

公事部十七

永和大嘗會記

永和元年十月廿八日天皇鴨河ふ幸多々大嘗會  
乃神奈比の稔一をまふ是を御禮の行者と云  
上古ハ鴨河ふりてささきも 天長以来おかくこの  
渾小帳屋をほりけり一昨日より官月小行幸有  
さき又代々の例あり後房朝而を御所とと執柄師良  
又直廬あり大園曉天より系候ゆる奉行職事

淺草文庫

檢校保己一集

卷九十五



頭左大兵宣方朝長百寮をもよわすと凡此の幸は  
 大儀をこゝつて子女を志さふ唐例ありふりて  
 群臣唐鞞をもちふ天明此禮諸司やうをく系集  
 未刻小関白系をもふ隨身十人福をさう上臈に人  
 とらんを乃袖かといをかたぬか駈下はは  
 六心一騎馬の先観ありといとも近例おやく唐  
 車ふ系して幸詔をわつるさうまけるりあ希下  
 の右大臣又系をもる兵仗をけはさるゆへ小侍府  
 長一人たりくもさる道をも隨を行務を記つくる  
 ともさや希下と申と八節旗の下よてもさる

を初をふた也古昔やの儀も人程くとさうふりて  
 酉刻ふ出所あり先簾外ふ出給内侍二人たり  
 毎門方の内侍所劔をとつ関白た方ふ作さる  
 大殿所後ふさうさう事と行も後房の南面ふ  
 鳳輦とさうと大将代と弭中將少將所樂ふさうて  
 くら此安廳ふてさ華して陸おくるはあ一方大将  
 又系とさる幔門の左方ふ海川隨身志とば希  
 を系とさる右大将代右もふさう公卿正廳の心  
 初平西上北回ふ海川もふを神変れさうて珍奏  
 あり珍奏といふ事ハ天子累代の靈物あるゆへふ

卷ノ十五



鈴太刀製なと成行幸少きかあつと依とつるや  
 ありと鈴ハもなとち羈使ふるふ太刀ハいふへ若  
 寶劔かよの節カカ力こる百海下のちまきつるに記  
 とともありと日月護身此劔破敵將軍此劔と云ふ  
 ありとこも連ルこる或ハ夜この光ふやも或は鈴  
 矢竹ゆや返くそ念の事あつ製ハ魚若のこちふ  
 似て諸司此辨冠カよつる事し今ハその名とつ  
 ありと他を器物をこつあつ如在此禮を用らる  
 ちるへし已ふ案所の時大炊御門宰相中将を案  
 劔璽の役をほしむた右の内侍劔璽をこつへと

たりと但壽永小寶劔西海志川みし後志とつ  
 璽とつるを行幸此時とつとつと彼例不唯し  
 て御劔とつるをこつとつと大とつと種此神劔乃  
 ちとつと左右とつと申へとつとつとを修し  
 ちるへし得ありとつと神璽といふハ守文也とつ  
 寶劔を武略を海ちつ内侍のち神代の正統とつ  
 ちの密法も法をこつ申あつとつと秘事とつとつ  
 六表三種安徳天皇あ海ふ幸し鈴し時海底よ  
 志川こし城内侍の神璽をこつとつとつとつと  
 宝劔をこつ二位の厄腰よとつとつとつとつと

卷九十五



志ぬ安徳天皇を嚴島の靈祝ありて生れしは就  
 玉の化を寶劔と祀官しとの事入流なりと説とも  
 申傳ゆらほるとよやおかひの事一件の寶劔を  
 崇神天皇此所代はくらきなる劔なり但頼朝大  
 将寶劔よわうて武將の威をゆるふに海を志りて  
 きりてそを後建曆のこけ神宮に差おふりてそ  
 ありてまのこけ所代近比の寶劔なり順徳院の所代  
 におこしふ事ありてハあふりて執をこふとよ  
 けりて柙三種の神劔いまこ山中と出さるる  
 世に人おもへる愚念をたふしにくく當れも現在

せふと思ひ給けりそをきむる楚王黃帝は  
 鳥號の弓をうらみあり王はあましく楚人ら  
 城めとむ國乃中とある處より以靈念ありて  
 へりと孔子とてりてましく措けたりとこのこ  
 まんころりゆととほるふ物多とといふとを一  
 天乃内ととあるうらむと況寶劔ハとあるらる  
 なると此劔の正神ありては熱田ふましく海と西海ふ  
 志にそ一寶劔ハ是とらにそ事ありてそのありて神祝  
 したふらち伊勢大神宮の正體なりといま神宮了  
 まりて海とこふありて當れけりて敷信をこふとれハ



宮中ふまゝとふかざるをくしと神璽ハ又天子  
 此玉仰あつ文を海なる政をあるくぞとて  
 ありとありち又神璽なるくし三種の靈體あり  
 國家の政化儀をまわりのもあ祭志ありハ佐政  
 の時ハゆふありと云とも體と合をく一表礼の世ふ  
 を宮中にあるとてりとも祭志なるありとて  
 ろ祭志なるを先賢の祀する所ありとてあり  
 あやまのありとて祭志なるありとてあり  
 やら祭志なるありの法ありとてありとてあり  
 乘御此禮圖白御裾をとるとてありとて入例  
 表

のありとてありハ神ゆふありとて諸將此警蹕をし  
 右大臣陣ふ自ら事と行ありやとて常旗の下ふ  
 むろろ少納言秀長長長兵衛頭常成少外記  
 中原師胤清原尚顯おありとてありとて御  
 樂東門をいりとて志くくおありとて常下の大長  
 ゆくはくこととてせくはく此鼓ハ幸御儀をく  
 とてありとて友百寮ありとて九騎馬ありとて翠華ふ  
 ありとてありとて行列ありとてありとて

前陣

左行

東市司 佐藤原光繼

卷九十五

七



左京職

亮源兼助  
進和氣行豐

神祇官

權大副大中臣實直

彈正臺

少忠安倍遠廣

隼人司

正中原康隆

次第司

同次官

式部少輔菅原淳嗣

左衛門府

尉中原章賴

使五位

阪上明宣

使

坂上滿明

市

武

源氏信

海老名

次第司判官

式部少丞紀重弘

同長官

權中納言藤原嗣房

兵庫寮

頭和氣常成

權少外記

中原師胤  
清原尚顯

侍醫

丹波兼康  
和氣邦成

侍從代

李頭和氣房成  
內藏助和氣仲繁

右馬寮

助藤原孝繼

大刀櫃

右行

西市司

佑安倍近範

右京職

亮源繼豐  
進宗岡興尚

次第司判官

中務丞和氣助有



大政官

左大史高橋秀職  
右大史三善家連

次第司主典

中務錄紀貞久

左衛門府

督代宮内卿藤原伊能  
權佐藤原經重

中原章胤

使五位

源義秀武官

藤原詮季

勝田

左兵衛府

督代散位平時成  
權佐藤原家房

次第司主典

式部錄和氣弘元

陰陽寮

漏刻博士賀茂在能  
大同在俊

少納言菅原秀長

節下

九條殿

右大臣忠基

中務省

内舍人和氣弘景

左馬寮

權頭源長繼

内記局

少内記紀織景

少納言平棟信

公卿

權大納言藤原公永 權中納言藤原忠光 藤原公定 源通氏  
藤原公昶 藤原實冬 參木藤原公勝 右兵衛督

左近衛府

大將藤原師嗣 中將藤原秀興 同親雅 同守教  
少將藤原範蔭 藤原實直 同頭資

右近衛府

大將代參木右中將藤原冬宗 中將藤原隆廣 源頭英  
少將藤原為尹 藤原教冬

後陣

藏人

左少辨藤原俊任 勘解由次官平知輔 式部大丞藤原永行  
中務丞菅原長遠 兵部丞橘知季 菅原為守



非雜色 源康定

主殿寮 允伴守春  
属伴安方

右兵衛府 督代散位藤原師有  
佐藤原資衡

次第司 同判官 兵部丞宗岡行助

同主典 民部録和氣豊佐

縫殿寮 允平廣行

大炊寮 允清原國卿

右衛門府 督代刑部卿藤原為敦 佐菅原言長  
權佐藤原資教

次第司主典 兵部録和氣助久

右 出納 安倍親景  
中原職富

掃部寮 允源助尚

次第司長官 參木右兵衛督藤原頭保

同次官 兵部少輔平知兼

圖書寮 允伴康光  
属源為重

内膳司 奉膳高橋清康

次第司判官 民部少丞宗岡行春

關白殿

御路大官を南へ二條を以て之のへ糸極を南へ三  
條を東へ河原の杉宮ふはさけと稱し關白二條堀川ふ  
車城を以ておとふる也又代之の例也御樂を以て











まつゝこの帳臺此儀も天子寐姫をりて密宴  
 の儀ありの童師院持と殿上人雅兼朝長秀長朝長親  
 雅朝長兼時朝長信俊朝長俊任經重賢教言長兼  
 邦藤源永行菅原長遠を東常りて后町此廊ふ  
 二行ふ列之志く邪曲の人ひんぬらやうこひんや  
 あもさめ下賜りの乱舞ありの苑人頭宣方朝長素戸  
 此内ふまきりるを戸をあけて一萬歳樂とてこひん  
 きてひくくやと宣方朝長袖とてこひんとて其あると  
 ありて其苑人頭をきてあもさめと儀ありの事とてあもさめ  
 還所ありの御儀ハ後廊より正廳の内におもてむ席

あり入せ給ふありの還所又もこのありて天子此と  
 一ぬさとやとゆハもあふり外ふまきりてや殿  
 上人ふゆとてとせ給ふありの後高羽院侍まり  
 の時を此帳臺持お御り准して御さしぬさとを  
 ささりふるとハ御り侍る

ねありと廿二日あもさめ宣方日ケの先殿上人此  
 御辭ありの承入る殿上人も系ありの頭方火  
 兼宣方朝長 直名柳の頭中 降廣朝長 直名紅松  
 室町左多邊督雅兼朝長 直名柳 楊梅中朝兼時  
 朝長 直名紅松 綾小路少将信俊朝長 直名紅松



藏人右少弁後任 東常 藏人右少弁恒重 東常 藏人  
 權右少弁資教 同 右兵衛佐資 衣冠 紅紫 楊梅少辨  
 兼邦 赤衣 藏人將監藤原永行 喜つり 衣冠 捕  
 知唐 衣冠 藏人中務直管原長遠 衣冠 衣冠 捕  
 殿との座乃おくもふわれ着と主と大殿園白  
 右大臣おとふれたる御覽ありて女房十人とりり  
 とそつりてとて衣のともとつりてとつりてとつりて  
 先例ありて二献ありて二献ふ雅兼朝臣飲せ極の朗  
 誦をいつりてとつりてとつりてとつりてとつりて  
 郭曲の人つりてとつりてとつりてとつりてとつりて

行を賞候と藏人頭おつりてとつりてとつりてとつりて  
 此衣のつりてとつりてとつりてとつりてとつりて  
 後朝臣靈山の山み句候おとつりてとつりてとつりて  
 後くやと扇をきつりてとつりてとつりてとつりて  
 ちの次身おむたしてとつりてとつりてとつりてとつりて  
 入改再三とつりてとつりてとつりてとつりてとつりて  
 なるの事とつりてとつりてとつりてとつりてとつりて  
 乃前庭とつりてとつりてとつりてとつりてとつりて  
 行列下痛ふつりてとつりてとつりてとつりてとつりて  
 ちをさつりてとつりてとつりてとつりてとつりて



必首の如くしるしをばとありしものや、大  
 嘗會の叙位ありし右大臣の如く拜賀を中てやうく  
 執事も亦作と右大臣の中よりしるしる、國白者府若文  
 よし、新大納言忠光、後日納言保光、後中納言公  
 時、あしきもの系、議中門宗、恭一人とありし、每執事此  
 依法の如くし、此叙位ハ悠紀王基乃大嘗會ふ  
 位とありし人、よ位を給ありし、後此前の儀ありし  
 齋始まりし、後唐れおと、小原風をきと、さう  
 ぬ大祓といふもの、庭ふと、みく歌と、さう、此等  
 露臺の祀祭ありし、後廊殿と人をも、右ふ、まて、おん

ありし、錢さし、い、あり、可、裁、未、の、と、や、し、は、る、新、人、以  
 降、後、船、長、招、戸、乃、内、ま、し、袖、を、入、と、と、後、葬、始、を、て  
 殿、と、人、と、も、御、あ、ま、し、て、お、ま、の、さ、う、あ、り、い、り、の  
 さ、や、う、し、ま、い、と、と、う、し、  
 同、古、三、日、卯、の、日、を、の、大、嘗、會、の、高、日、を、り、と、神、祇、亦、  
 也、ふ、敬、重、あ、り、へ、し、又、殿、と、の、例、辭、の、の、お、と、し、  
 ろ、う、し、い、ん、と、あ、は、お、か、く、若、府、資、資、船、信、仲、光、船、信、  
 左、右、の、行、事、に、し、る、ふ、の、標、山、ふ、位、と、ま、と、お、志、あ、り、  
 別、り、あ、り、と、く、殿、と、お、ま、し、と、ら、と、お、外、實、宣、船、信、標  
 山、此、國、司、將、ま、く、れ、お、り、く、お、志、を、着、と、例、辭、の、式、昨







次大忌公卿 大炊御門大納言 洞院中納言

次御輿

次將 左親雅朝臣 守教朝臣 實宣朝臣 右基明朝臣 公仲朝臣 資守朝臣 守春 季尹

大極殿はあまの形尾道はまを腰輿ふりしは  
勢はふ今いひ門あともくともまの原をま  
まを形首のあまを川流してやういひせは  
廻立殿へハ宮中の形幸は神を腰輿よめさる也  
ひう大内の中は行幸ハこを腰輿かもの廻立殿の  
南西の御輿をまをくおつともせはつこの廻立殿を  
昔まうらんと志と殿舎をて侍連といまはうは

はうらやまを侍ふありとも後御湯とやとまありと  
さゆらうらまを侍ふありとも後御湯とやとまありと  
殿の形くを侍ふは六位を山藤流をもちひら  
侍のあまともを子孫をたふらるとして六のあま  
は六位はと侍侍るに志のゆかおまの御衣  
あまを侍侍るを侍ふと侍侍るに志のゆか  
侍侍るに志のゆか侍侍るに志のゆか侍侍るに志の  
乃所装束とあまの侍侍るに志のゆか侍侍るに志の  
のさめと侍侍るに志のゆか侍侍るに志のゆか侍侍るに志の  
侍侍るに志のゆか侍侍るに志のゆか侍侍るに志の

宗實



勤仕をうらぐ代に此家ありてハ御装束の秘り口傳  
 をハ傳きり人をおこととを承り御装束ありて  
 奮りてお侍ある廻る殿より悠紀乃神殿まで道  
 道よりこむおことと志とていふことありて  
 お志とていひてあまを志く前行た大臣とていふ  
 中ノ岡白袴服よりして系とていふこと中山井親  
 雅知臣御劔をとりてまよの御およとていふこと  
 志部中臣様おこといふやうの者ともあゆまはる  
 ありといふ門よりあま御いふゆかり悠紀の大嘗嘗  
 此島居を入を拾て内へ入拾り大臣ハ退て帷若

をふさぐ〜ぬさぬ〜ありあま〜ともあゆまはる  
 ありゆ〜ともま門悠紀の御様まいる御様乃意女  
 たり外ハは神殿の中へ入人もありト初一人七首  
 乃竹杖をもちて仕能と御様乃次方ハ人の志  
 らとてあまのあまハ志あり〜申ふをよ〜と天祚地  
 祇を天子のてはる〜ま門らを拾り神佐をとあ  
 拾りてせうも拾りて執指の家おと乃外ハ志り  
 人もおことや夕膳を責問を拾りて〜ヤウク  
 取あげ〜よありぬを代いかやう〜を拾り御様と  
 して又廻る殿より〜を拾り又御ゆるとあり







いとねも〜一交和も雪ゆりゆ〜代々の  
 所住例よそゆるとうや事とほろ事未の時と  
 うりもあつとさくもろふ早とふ標の山を朱雀の  
 大路よりかきとむ用とも何と標の山は官れ  
 廳の門右左ふ多川ふあつとさういふ川とさめ八乙  
 女歌う〜ふま〜とやき〜神さか〜た〜ゆ〜此交  
 の歌悠紀を勘解由小路大納言兼細柳至基八日  
 野大納言忠光

悠紀ハ  
悠紀ハハカキは〜と〜に〜あ〜ふ〜は〜あ〜は〜ハ  
 悠紀ハハカキは〜と〜に〜あ〜ふ〜は〜あ〜は〜ハ  
 悠紀ハハカキは〜と〜に〜あ〜ふ〜は〜あ〜は〜ハ  
 至基ハ  
至基ハハカキは〜と〜に〜あ〜ふ〜は〜あ〜は〜ハ  
 至基ハハカキは〜と〜に〜あ〜ふ〜は〜あ〜は〜ハ  
 至基ハハカキは〜と〜に〜あ〜ふ〜は〜あ〜は〜ハ

此外山々の御屋風とくあり悠紀之基の歌六  
 西柳よりあり悠紀之基御屋風標山下は中交は  
 文章博士秀長朝長太子次為細柳長勘進と此外  
 又歌ふと成宮内卿伊能長多紙ふ〜記多〜と繪  
 所行忠畫圖の藝をやとら〜いと具ありと  
 同女曰日〜ハ辰乃日〜の割酔を〜と〜のハか  
 多〜悠紀之基帳を高御所代方右よ〜と〜節  
 會あり〜因縁方大旨外無徳大寺大納言實時中院  
 大納言具道西園寺大納言公永日野大納言忠光  
 洞院中納言公實兼中納言保光三條中納言實光



土御門中納言定具侍從中納言公時中御門宰相  
 宗恭少納言秀長少納言資康朝臣仲光少納言次將  
 左季興少納言親雅少納言實宣少納言右基明少納言  
 白晝の幕令大内之面影のころういとおもひ  
 官廳乃高御所よりハ神泉苑を庭あるやうふみえ  
 二御者おもしろけうめん地せとるま川祭主忠直少  
 后うり本を笏ふとへくよことの奏儀ふむ諸卿の  
 こまひいさそををきいふといとおもひ  
 とくもあつたことれ奏といふハ神祇の祭を奏詞乃孫  
 とくもあつたことれ奏といふハ神祇の祭を奏詞乃孫

八さうりたはくしゆしを御おさりの基をたは  
 していとおもひ候しとくは御おさりの  
 内毎御帳臺のよくりのちのち御冠おさりの  
 白乃さうりたはくしゆのちのち御冠おさりの  
 人々おさりの御紀行事をたはくしゆのちのち御冠  
 小忌とさうりたはくしゆのちのち御冠おさりの  
 ちのち御冠おさりのちのち御冠おさりのちのち御冠  
 好道ハ又主基此帳目うつしを御おさりのちのち御冠  
 帳目海いつて御會とたのちのち御冠おさりのちのち御冠  
 馬れせらるるこのやうなる候を一日よみ候と



こふと進侍のいふこと大儀なる事とて好連を  
後房より入りせ給ふ御舎の如く大後園白御  
帳臺はよきとてしてあつてを好む他人とてふ  
所帳臺のありしなり

女五日より八日までの惣祀之基此御舎とのあり  
如く同敷たる外并徳大寺大納言中院大納言日野  
大納言洞院中納言之後中納言土御門中納言大炊御門  
中納言冬宗侍從中納言中御門宰相長宗朝長少納  
言彦成朝長資康朝長仲光朝長次相大親雅朝長  
實宣朝長右基明朝長教長公邦也凡俗田藤や海

と藤ふしと云ふありは神代ノ風俗也清暑堂と云ふ  
大極殿ふありし堂の名あり今ハと進ハ名ありて  
後房の後廊とて所不推とて進て行ふとてあり  
之と御侍子に侍給ふ御うとて御冠とありと大後  
園白と御後不推とておかし梅子後小納前宰相敷有  
末物子源宰相義賢付御中御門宰相李興朝長信  
後朝長資守朝長信俊朝長笛師實音實繁朝長兵部  
卿兼親和琴大炊御門大納言宗實御神樂の程あり  
まのふ難人おかくてとて毛刀の進とてそのうち御遊  
ありと進大官前大納言實尚朝長朝長右大納言公直等



新宰相中將季題をうけいとおとるるに御膳のまゝい  
とん大炊御門大納言をうけりて福とをうけ  
る事也次日乃爾討てりてふ侍りてりて

廿六日久ふを午日あると徳紀主基北御帳標山を  
とて徹して高御座ふはを給く豊明の首命あり  
内条今出川大納言實直外条日野大納言洞院中  
納言土御門中納言御子左中納言為遠中院中納  
言通氏侍從中納言別當嗣房中御門宰相園宰相  
基光少納言秀長納言女侍先朝長次為左親雅納  
言右教後納言基卯納言教之公邦を徹叙位乃位

記がし城くもりの叙列ふきり事白馬の節念持如  
くも乙女孫とて孫かして云ひともあるとあると  
やうし土御門内重へ還御あると風のことありて  
敷日の大儀ともせあるふおあるれ侍あるといと  
ありてあると文和よハ世の中も志のありてあると  
何とあるとさやうありてあるはは海浪おさるつと  
天風志のありてある武家志あるとありてあると  
めも目かあると命神慮に通一侍連ハ聖運武運も  
万歳を給てりてありてありてありてありてあり  
此日記ハ見物の人持中よありてありてありてあり